

校長通信 (教職員版) 第9号 R1. 8. 23

朝日新聞社主催「先生のためのSDGs勉強会」に参加してきました！

【1】はじめに

8月17日に朝日新聞社大阪本社で開催された「先生のためのSDGs勉強会」に参加してきました。今年度、朝日新聞社とは、「ワールドスタディズ」でSDGsに関してコラボレーションを行っています。この取り組みが、全校的な取り組みとして発展していかないだろうか…、他の学校はどのような取り組みをしているのだろうか…と考える中で、参加してきました。

勉強会では、二つの実践報告がありました。一つは、埼玉県上尾市立上尾東中学校の取り組み、もう一つは、立命館守山高校の取り組みです。概していうと、上尾東中学校の取り組みは、全教職員が関わる学校全体としての取り組み、立命館守山高校の取り組みは、田辺先生が個人としてボトムアップ的にどれだけ取り組んだかという実践発表でした。どちらの取り組みもとても参考になりましたので、ここで紹介したいと思います。

【2】上尾東中学校・松倉先生の取り組み

上尾東中学校は、平成27年度～平成30年度に文部科学省の「研究開発校」の指定を受け、新教科「グローバルシティズンシップ科」を創設し、中学校におけるシティズンシップ教育の在り方の研究をしていました。今回の発表は、その中心を担われた英語科の松倉先生の実践発表です。

(1) グローバルシティズンシップ科

今回の研究の柱は次の3つです。

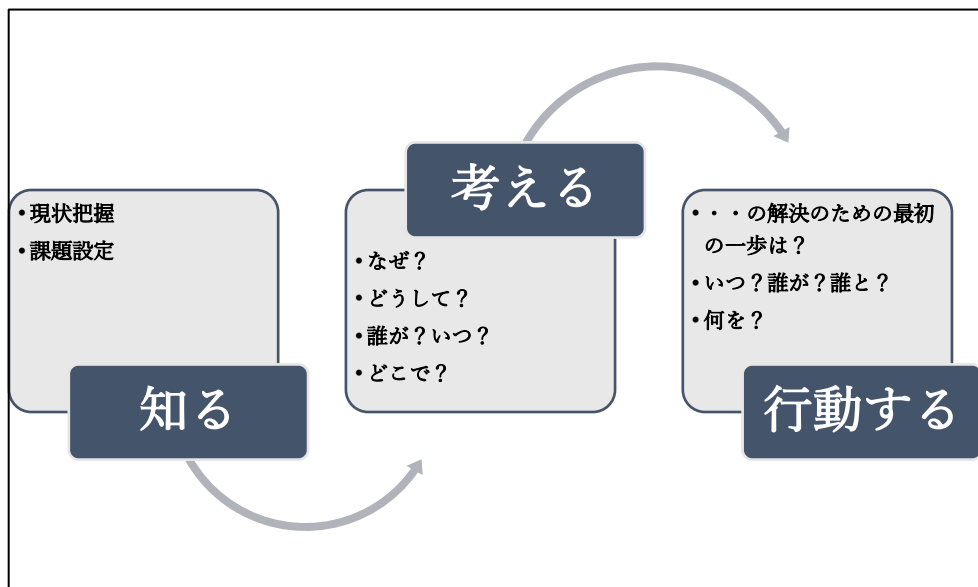
- ①18歳選挙権・18歳成人実施に向けた社会参画意識の向上
- ②持続可能な社会の担い手の育成
- ③多様な他者と協働できる力の習得

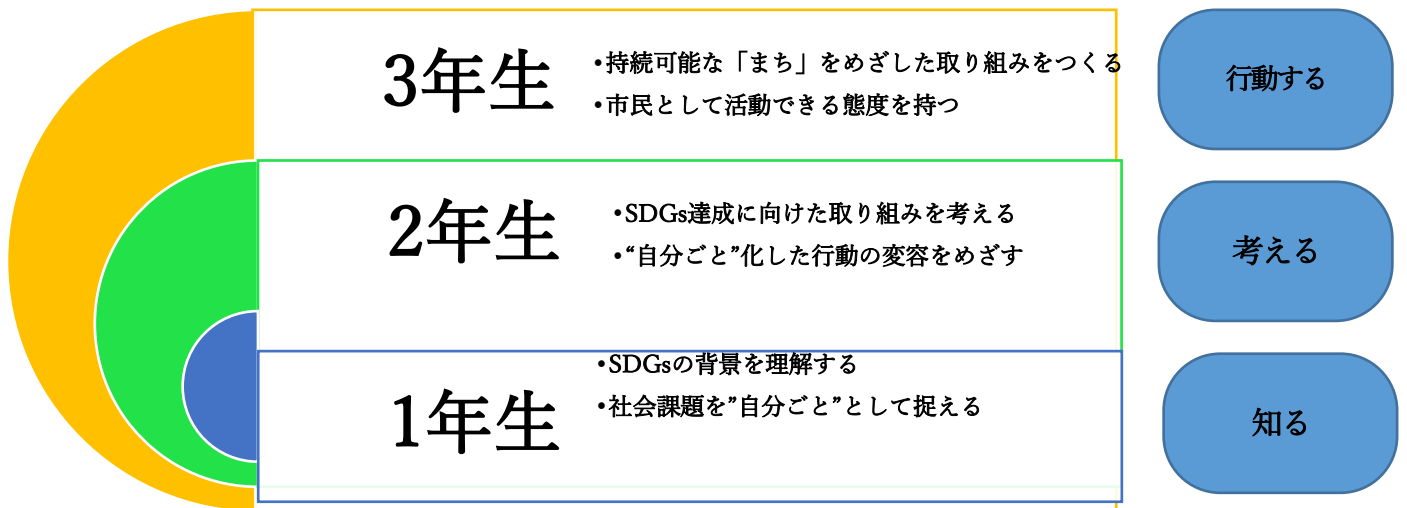
1年目は、『総合的な学習の時間』の1時間を活用する年35時間のプログラムでしたが、2年目からは、金曜日の5限・6限を使う年70時間のプログラムです。私が参考になるのでは、と考えたのは、「カリキュラム開発」の分野ですので、この分野を中心に報告をさせていただきます。

(2) カリキュラム開発

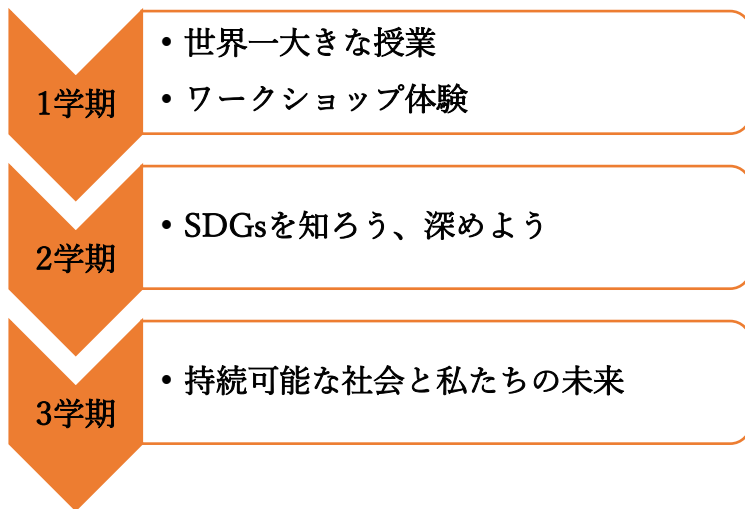
グローバルシティズンシップ科では、知識として知るだけにとどまらず、考えさせて行動にまで移させることを目的にカリキュラムが構成されています。

これが、学習の3ステップで、右の図です。





この学習の3ステップを各学年に落とし込んだのが上の図です。質疑応答でも出ていましたが、1年生で、かなり広い視点で「知る」をテーマにSDGsについての知識を広めていき、2年生で、SDGsを「ジブンゴト化」する取り組みを行う中で、3年生で足元である上尾市について持続可能な『まち』をめざす取り組みを行います。



1年生のカリキュラムは左図のように進むのですが、「SDGsを知ろう」のワークショップで、私が「おもしろい!」と思ったのは、「SDGsを自分の言葉で!」という取り組みです。実際に参加した私たちもワークショップを行いました。かなり頭を使います。一度、先生方も考えてほしいので、17のゴールのうち、簡単なものから難しいものまでいくつか取り上げます。これを自分の言葉で表現してください。特に、「中学生にわかるようにするには、今宮の生徒が理解できる言葉なら、どうなるか?」ということを念頭において考えられると、とても難しいことが分かります。上尾東中の生徒たちは、自分たちの言葉で表したSDGsの17の目標を、ポスターセッションという形で発表を行っていました。

目標 2 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。

英文

Goal2. End hunger, achieve food security and improved nutrition and promote sustainable agriculture

目標 4 すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

英文

Goal4 Ensure inclusive and equitable quality education and promote lifelong learning opportunities for all

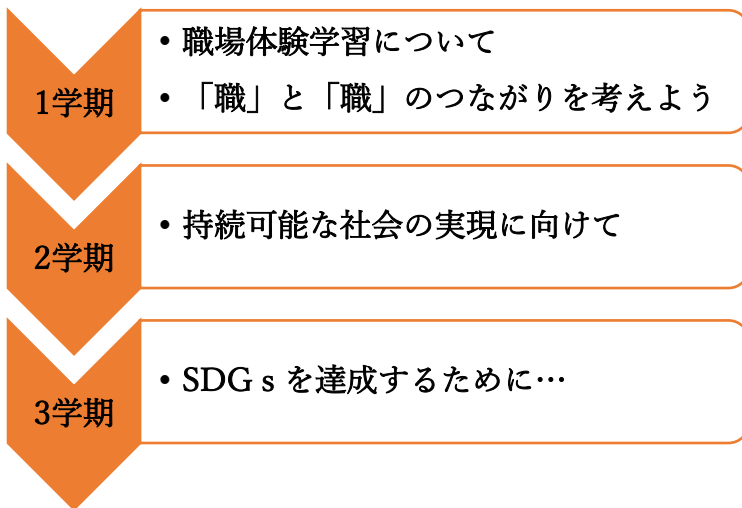
目標 15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復および生物多様性の損失を阻止する。

英文

Goal15 Protect, restore and promote sustainable use of terrestrial ecosystems, sustainably manage forests, combat desertification, and halt and reverse land degradation and halt biodiversity loss

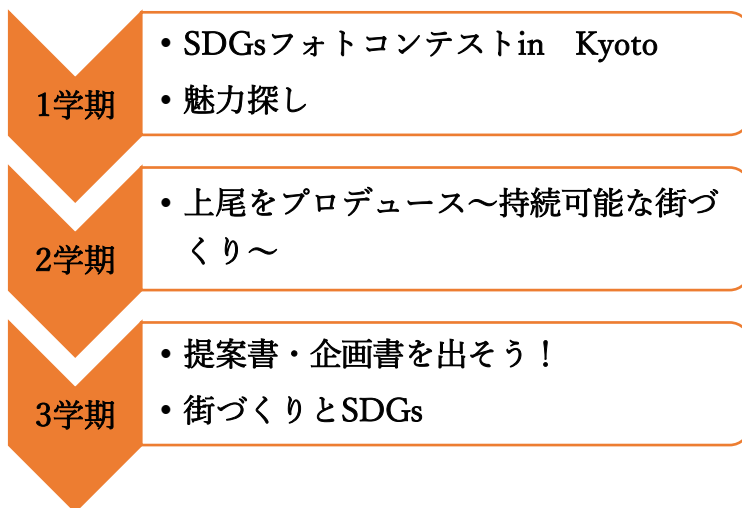
2年生では、次の図のようなテーマでカリキュラムが進みますが、「中学生がここまでやるか!」と思ったのが、校外学習です。

「持続可能ってどんなこと?」という大きなテーマの下に、各クラスがテーマを決めて、調査を行います。そのテーマと訪問先が次の表です。



調査・訪問の前には、質問作成の討議が行われ、調査・訪問後には、その内容をまとめたプレゼンテーションが行われます。校外学習とSDGsを関連させた取り組みで、「ここまでできるのか!」と正直感心しました。これがまた普通の公立中学校ですからね。この点にも驚きです。

テーマ	訪問先
災害後の被災者支援に関わる政府の取り組み	復興庁
戦争が動物へ及ぼす影響についての調査	上野動物園
コンビニエンスストアが考える環境に配慮した取り組みを調査	セブンイレブンジャパン
未来の家電は、どうなる? AIと人間の役割についての調査	iRobot
平和構築に向けた国連の役割について調査	国連広報センター
飢餓の原因と貧困の関係について調査	ハンガーフリーワールド



3年生では、修学旅行があります。埼玉から京都に修学旅行です。私は今回初めて知ったのですが、京都市は、市を挙げてSDGsに取り組んでおり、SDGs先進度ランキングで全国1位を獲得しています。こんな京都の修学旅行ですから、上尾東中学校では、宿泊先の女将にSDGsについて語ってもらって、『京都の持続可能性の裏表』の勉強をしています。また、SDGsに関するフォトコンテストが、高校生から大学院生までを対象に行われている企画があるのですが(これも初めて知りました)、「中学生だってできるんだ!」と修学旅行でSDGsの取り組みを行っている企業・団体・人・施設を対象にフォトコンテストを行っているという報告がありました。調べてみると、SDGsについてのフォト

コンテストは、2018年度に開催されており、そのほかにもSDGsについてのコンテストは様々なものがあることが分かりました。

ここからが、上尾東中学校の真骨頂ですが、地元上尾市に政策提言を行う提案書作成を行います。「知る」→「考える」→「行動する」の「行動する」の段階です。テーマは、

子育て 防災 防犯 農業 高齢者介護 自転車問題 環境(ゴミ処理) 広報活動

で実際に上尾市に政策提言を行います。市の担当課別にテーマを設定して、政策提言しているということでした。

【3】上尾東中学校の取り組みを聴きながら…

今回の上尾東中学校の取り組みを聴きながら、思ったことを整理したいと思います。

(1) SDGsと新たな学力観

何回も登場してきますが、今後の社会(日本・世界)を生きていくうえで求められる力は、知識・技能のみならず、それらを活用して「正解の無い問いに最適解を求める力」(よのなか科の藤原和博氏)です。これを文科省の言葉で、思考力・判断力・表現力等や、学びに向かう人間性と表現されています。このような力を育むとき、国連の目標である「持続可能な社会の創出」というSDGsの目標は、大きな視野と目標を与えてくれます。また、17の目標から具体的な視座を与えてくれます。この意味で、SDGsは、自ら課題を発見し、考え、解決するというPBLと親和性が高いと思います。

(2) 最後は、「行動する」へ =地元との連携=

上尾東中学校が、「知る」→「考える」→「行動する」という3ステップを踏んでいき、最後には地元上尾市を「持続可能な地域」にするための政策提言にまでゴールセッティングをしていることは、大変大きな意義があると思えました。SDGsは、まさに「行動」を求めている世界的な社会運動です。その運動を自分の置かれた立場で考えていくことは、SDGsを「ジブンゴト化」する意味で非常に重要です。大阪市大阪府がどれだけSDGsに熱心に取り組んでいるのかは知りませんが、地元よしもと興業は、SDGsに熱心に取り組んでいます。また、浪速区は外国人居住者が比較的多く、行政として課題も多い地域です。さらに新今宮地域にはSDGsに関する課題が山積みと思うのですが、如何でしょう？

前から感じていることですが、今宮の生徒はどれだけ社会に目を向けられているのでしょうか。自治会活動も活発ですし、「■■生の主張」などという企画もあります。3年生では、課題研究もあります。社会に目を向けて、自らの生き方を考える場は整っていると思うのですが、どうもその教育内容が芳しくありません。この一連の装置（「産社」から「課題研究」まで）にSDGsという縦串を一本通し、手法としてPBLを導入することで、ピリッとしまった探究学習ができるのではないかと思います。如何ですか？

(3) 既存の企画をSDGsという視点で練り直す

上尾東中学校では、グローバルシティズンシップ科を構築するにあたって、どこの学校でも行われている校外学習や修学旅行をSDGsの視点で再構成しています。この発想は、とても重要ではないかと思えます。本校でも、3年間の探究学習の在り方やキャリア教育の在り方をどうするのかという議論を、ビジョン委員会を中心に行っています。この議論の行く末には、必ず既存の行事やイベントの再構成が議題に上がってくると考えられます。その意味で、上尾東中学校の取り組みは、参考になると思われます。

【4】立命館守山高校での田辺先生の実践

田辺先生は、世界史を主に担当している社会の先生です。先生が授業の最初に「なぜ世界史を学ぶのか」の話をされるたびに、SDGsの話題を出すのだそうです。つまりどういうことかという、

「SDGsは、持続可能な社会をめざすために、国連で生み出された世界的な運動だけど、なぜ、SDGsのようなものが、国連で生み出されたのか」というと、「持続不可能な事」を今まで世界中でやってきてしまったために、「持続可能な事」をやらなければならないから。世界史を学ぶというのは、今まで「持続不可能な事をやってしまった」事を学び、それを学ぶことで、「世界の持続可能性」を学ぶという意味があるのです」

という実践発表の最初の言葉がとても印象に残りました。「なるほど！」と思えました。先生は、毎回授業で使う教材に、SDGsの何と関連した学習なのかということを確認するために、17の目標のアイコンをプリントに入れておられます。この取り組みについて、田辺先生の言葉を借りて、世界史でSDGsを取り上げることの利点を紹介したいと思います。

(1) 授業の目的がはっきりとする。

歴史の授業では、時系列に出来事や人物を習っていくために授業の目的がぼやけてしまうことがあるが、授業構成でSDGsを意識すると教員の中で、“ここにつなげる”という目標ができる。授業の内容を絞り、どのような道筋で教えるかを逆算して考えることができる。

(2) 歴史を通して現代の問題につなげることが容易

歴史の授業では、歴史の出来事から現代社会の問題につなげることが求められている。さらに、それを教員が一方的に教えるのではなく、生徒自身が発見することがベストである。私は、SDGsがその手助けになると考える。ある歴史的出来事から、どのような社会問題が発生しているのかを生徒に発問した際、実際に生徒はSDGsのアイコンを見たりしながら調べる、考える等をしている。

(3) 教科の横断的な学びにつなげやすい

SDGsはどの教科でも利用することが可能である。SDGsを学校全体で使っていけば、横断的な学びが可能である。授業中に「このアイコンは理科でも使った！」などと生徒から声が上がると、そこから話は大きく膨らみ、科目にとらわれない自由な発想が養われるのではないかと考える。

今回は、SDGsと学校教育という実践について紹介しました。参考になれば幸いです。